

11. 評価結果概要表

【認知症対応型共同生活介護用】
作成日 平成 20 年 12 月 9 日

【評価実施概要】

事業所番号	0770101657		
法人名	社会福祉法人生愛福祉事業団		
事業所名	グループホーム生愛レジデンス		
所在地	〒960-0251 福島県福島市大笹生字向平12番地 (電話) 024-555-4611		
評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会		
所在地	〒960-8043 福島県福島市中町4-20 みんなゆうビル302号室		
訪問調査日	平成20年11月21日	評価確定日	平成20年12月25日

【情報提供票より】(平成20年10月12日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成14年10月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤	7 人, 非常勤 1 人, 常勤換算 7.2 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り		
	2階建ての	2階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	49,500 円	その他の経費(月額)	7,875 円
敷金	有() 円 ● 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 円 ● 無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		1,200 円

(4) 利用者の概要

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	4 名	要介護2	5 名		
要介護3	0 名	要介護4	0 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 87 歳	最低	71 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	福島西部病院 生愛会中央医療クリニック
---------	---------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

総合的な介護・医療・保健施設を擁している社会福祉法人運営のグループホームであり、快適な居住環境が整備され、利用者の身体的安全も図られているため、落ち着いて自分らしく生き生きと生活している様子がうかがわれる。自分史の編纂に取りかかっている方や、パソコンで年賀状作成に挑戦されている方などアクティブな面が見受けられた。若い介護職員も人生の先輩として利用者を尊敬し、言葉遣いや動作にも十分配慮し、家庭的な雰囲気の中にも作法が行き渡っている。自己評価も取り組みの事実を全員で評価し、今後取組むべき事項を明確に意識し、改善に向けて努力している。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 現状に即した介護計画の見直しについては、ケアプランの介護サービス内容に対する具体的な記録内容が十分でないため、記録様式についての検討を行っているところである。看取り対応指針等の作成や利用者等の入居時の説明・同意については改善されており、災害時の備蓄も整備されている。
	自己評価については、全員参加で行なっており取り組みの事実を明確にしている。全体的には管理者が総括し、一層の質の向上に反映させるよう取り組んでいる。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5) 2ヶ月に1回定期的に開催しているが、会議の趣旨や自主的運営についての理解が不足しているように思われる。そのため、委員の役割等を定めた運営推進会議設置要綱等を作成し、それらに基づき委員を委嘱し、委員長が招集し参画意識を醸成することが望ましい。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 定期的に近況や行事の写真等添え家族へ伝えている。また、苦情受付担当者、第三者委員会、意見箱も設置し、意見要望等に対する回答を玄関フロアに提示してある。家族等の面会者も多く、家族からの要望等を聞き、運営に反映させるよう努めている。預かり金も出納簿を整理し適正に管理されているが、今後は担当者と管理者による二重の管理体制を検討している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 総合学習の一環として実施している近隣の小学校生徒を事業所が受け入れ世代間交流事業を行っている。また、学校からも学習発表会の招待があり、利用者も参加するなどして交流を図っている。ボランティアの受け入れについても積極的に取り組んでいる。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自の理念として、地域密着型サービスを理解、意識して作成されている。地域との関係性を重視し、地域の医療機関との連携も記載されている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を共有するために、採用時には理念の内容を十分伝えており、裏側に理念を記載したネームプレートを職員全員が付け、日々の業務の申し送りにも理念を確認し合っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地区の社会福祉協議会で開催された行事に参加したり、世代間交流として、地元の小学校との交流も行っている。近所から野菜や果物などを頂くことも多く、お礼に利用者が育てた鉢花を一緒に持参することもある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は職員全員で検討、作成している。外部評価についても全職員が理解し、改善事項についても具体的な改善策を検討し実務に反映させている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は定期的開催されている。しかし、双方向による会議が望ましいが、議事録からは委員の参画意識が乏しいように思われる。また、出席者は限定的で少ない。	○	運営推進会議は、法令で定められていることから、設置目的に沿った運営が望ましい。そのため、設置要綱等を定め、委員を委嘱するなど参画意識を高めながら実質的な会議を行うことが重要であると思われる。
6	9				
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	行事参加の写真や広報誌を利用料金の請求時に定期的送付している。預かり金についても出納簿、領収書を同封するなど適正に処理している。身体状況の変化については速やかに家族等に電話等で報告し対応している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付担当、第三者委員会、ご意見箱を設置している。来訪時や運営推進会議などでも意見や要望等を出しやすい雰囲気作りに配慮している。また出された意見への回答は、玄関フロアに掲示しており、全職員で改善策を検討し、サービスの質の向上に努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内での異動が主であり、異動により配置された職員や新入職員には、オリエンテーションにより認知症への理解を図り、利用者の状態像を伝えながら、馴染の生活を維持するよう十分引継ぎを行い、利用者への影響を最小限にする努力をしている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体の施設内研修の他に、新人研修、キャリアに応じた外部研修へ積極的参加させている。資格取得に関する研修へも支援し、資格取得後は業務に反映させるように配慮している。研修内容は文書で復命し、全職員に回覧されている。法人全体の年間計画と併せて事業所独自の計画も検討するとのこととしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	福島県認知症グループホーム連絡協議会、全国認知症グループホーム協会に加入し、研修会や他事業所職員との交流を図り、情報交換の機会としている。今後は利用者とともに他のグループホームへの相互訪問による交流を検討している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している(小規模多機能居宅介護)			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	若い職員は、利用者から歴史について学ぶことが多くあり、また料理方法や園芸について教えていただき、感謝の言葉を交わしながら利用者と職員が一体的な関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の生活歴を把握し、家族からの情報を取り入れ、利用者とのコミュニケーションにより意向を十分把握しながら、日常のケアに反映するよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者や家族の意向を取り入れた計画となっている。ケース会議を定期的に行い職員の意見を取り入れ、利用者や家族の希望を踏まえた個別・具体的な計画作成に努めている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間内の見直しや利用者の状態変化に対しての随時の見直しは行なっているが、介護計画に基き、提供した具体的サービス内容の実施記録が十分でない。そのため、見直しの根拠となるサービス内容に対するモニタリング評価が適切かどうかの判断ができない。	○	介護計画に基くサービス内容は、サービス頻度も含めて具体的援助内容が記載されるが、それらに基いて提供した具体的なサービス内容等の記録が重要である。記録を検証し、モニタリングすることにより、適切な見直しが可能となると思われる。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている(小規模多機能居宅介護)	/		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医との連携は密に行なわれており、受診の際には家族に対し身体的状態等の情報を提供し適切な医療受診を支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に対する対応指針を作成し、入居時に利用者や家族に対し説明し、同意を得ている。緊急時の夜間対応マニュアルも作成し法人内の施設職員との連携を図りながら支援することとしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者のプライバシーを尊重し、プライドを損ねないよう言葉遣いや礼儀にも十分留意している。採用時に誓約書を取り、個人情報保護に関する法令順守を徹底するよう努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の好みや得意分野を把握し、自由に過ごせるよう、散歩や買物や美容室への送迎など、出来るだけ外出の機会をつくり希望に添って支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューは利用者と相談し、調理やお茶入れ下膳など利用者がそれぞれ役割を分担しながら行い、食事の時間を楽しんでいる。職員も会話をしながら食事の楽しみを共有している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間は概ね決まっているが、希望者には毎日の入浴も可能である。利用者の希望や身体的状況に合わせて、楽しみながら入浴できるよう支援し、同性職員の入浴介助に配慮している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援(認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている(認知症対応型共同生活介護)	お茶入れ、調理、掃除、行事の企画等利用者の得意分野や好みを把握し、張り合いが持てるよう場作りや物品の提供をしたりしながら支援している。パソコンに挑戦している方もいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している(認知症対応型共同生活介護)	買い物や散歩等出来るだけ外出の機会を設けたり、ピクニックや外食を楽しみながら気分転換を図ることもある。街なかで定期的に利用者作品展を開催しており、利用者が観賞する機会を設けている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	2階部分がグループホームであり、エレベータの近くにはセンサーがあるが、センサーに頼らず職員のさりげない見守りにより落ち着いて過ごしている。1階の玄関は、来訪者に対してインターフォンで対応するシステムになっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	自衛消防組織も編成し、毎月定期的に昼夜の設定を変えて避難訓練を行っている。消防署立会いによる訓練も実施している。水、食料品等の備蓄も整備されてある。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ケース記録に食事や水分の摂取量を記載し、間食等で工夫し補食したりしながら、利用者の状態に応じて支援している。また、献立についても栄養士の助言を得ながら栄養管理を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔で明るいきりびんぐは、利用者が寛ぐ最適な空間となっている。広いベランダもあり、季節感を十分味わえる環境が整っている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具や植物を配置し、利用者の個性が感じられる居心地の良い居室となっている。		

※  は、重点項目。

3 評価結果に対する事業所の意見

事業所名 グループホーム生愛レジデンス

記入担当者名 齋藤 亜早美

評価結果に対する事業所の意見

特になし

評価結果に対する「事業所の意見」の記入について

意見については、項目No.を記入してから内容を記入してください。